

ペット防災対策 ガイドブック

～愛するペットと災害を乗り越えるために～



京田辺市

災害時、大切なペットと一緒に避難するために

～家族の一員を守るための防災対策～

はじめに

災害はいつ、どこで起こるかわかりません。地震や台風、集中豪雨など、様々な災害が私たちの生活を脅かします。もしもの時、大切な家族であるペットと離れ離れにならないよう、飼い主の日頃からの備えと心の準備が何よりも重要です。

同行避難って、何？

「同行避難」とは、災害発生時に、ペットと一緒に避難所まで避難することをいいます。

ただし、人とペットが同じ居住スペースで生活できることを意味するものではありません。

避難所は、多くの人が集まる場所です。避難者の中には動物が苦手な方やアレルギーを持つ方もいます。

人とペットが安全・安心に過ごせるよう、ルールを守って生活することが大切です。

京田辺市では、ペットとの同行避難はしていただけますが、居住スペースは別の場所に設置することとしています。

(例)

- ❖ 避難所のペット用スペースに、ケージやキャリーバッグに入れた状態で待機させる。
- ❖ 避難所では、ペットの鳴き声やにおいなどで、他の避難者とトラブルにならないよう配慮が必要です。



✿ 飼い主さんの「自助」が基本です

災害が起った時、ペットの安全はまず飼い主さん自身が守る「自助」が基本となります。大規模な災害では、行政やボランティアによる公的な支援（※公助）が被災地全体に行き渡るまでには時間がかかります。そのため、災害発生直後の数日間は、ペットフードや水、薬など、ペットの命をつなぐための物資が不足する事態も想定されます。ペットを守れるのは、日頃から備えをしている飼い主のあなただけなのです。

災害時、重要な3つのこと

- 1 飼い主さん自身の安全確保
- 2 日頃からの適切な飼養（しつけ・健康管理）
- 3 ペットと一緒に避難行動



（例）

- ✿ 自助：普段からペットと一緒に避難できるようにしつけ、持ち出し品等の準備をしましょう。
- ✿ 共助：地域のペット仲間と災害時の情報共有や、一時預かりの協力体制について話し合っておくこと。
- ※ 公助：自治体が提供する災害時の情報や支援を活用すること。

✿ 災害が起こる前にできる備え

① 住まいの安全対策

「もしも」の時に備え、まずはペットが安全に過ごせるよう、家の中の環境を整えましょう。家具や家電が転倒しないよう固定し、ペットのケージやサークルを安全な場所に配置することが重要です。

- 1 ケージや家具の固定：転倒や落下を防ぎましょう。
- 2 避難場所の確保：自宅内での安全な場所（ケージや隠れ場所）を確保しておきましょう。
- 3 屋外飼育の場合：飼育場所の周りに倒壊の危険物がないか確認しましょう。

（例）

- ✿ 家具やテレビを耐震グッズで固定する。
- ✿ ペットのケージを、重い家具の近くや窓のそばに置かないようにする。
- ✿ もしもの時のために、屋外飼育の場合、ケージを置く場所は、外塀やガラス窓の近くを避ける。



② しつけと健康管理

避難所では、様々な人が一緒に過ごします。中には動物が苦手な方や、アレルギーを持っている方もいらっしゃるため、お互いが快適に過ごせるように配慮が必要です。

そのためにも、普段からペットのしつけと健康管理を徹底しておくことが求められます。

- 1 基本的なしつけ: 「待て」「おすわり」「伏せ」など
- 2 ケージに慣れさせる: ストレス軽減のため、普段からケージの中で落ち着いて過ごせるようにしましょう。
- 3 健康管理: ワクチン接種、ノミ・ダニ予防、不妊・去勢手術を行いましょう。

(例)

- ✿ 日頃から「おすわり」や「待て」ができるようにしつけておくことで、避難所でのルールをスムーズに守れるようになります。
- ✿ 自宅でケージを常設しておき、おやつをあげたり、おもちゃを入れてあげたりして、ケージを安心できる場所だと認識させる。
- ✿ 健康診断の結果やワクチン接種証明書をデータ（携帯電話に保存等）で保存しておく。

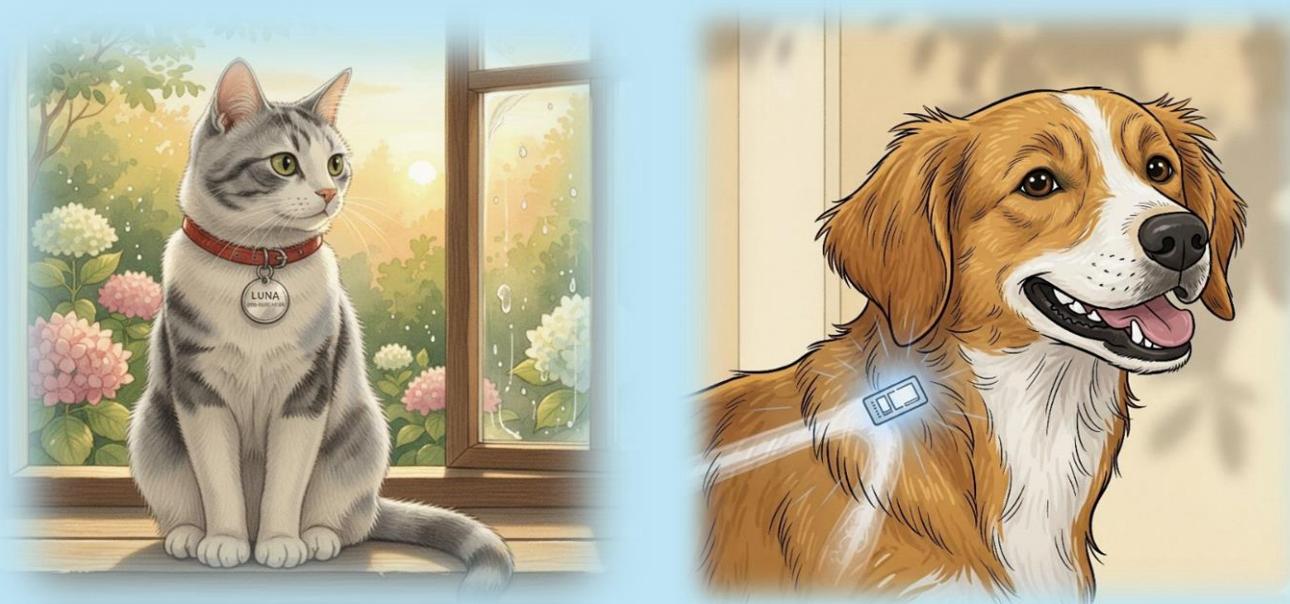
✿迷子にさせないための対策

災害時の混乱の中、ペットが逃げ出したり、飼い主と離れてしまうリスクは非常に高まります。万が一の時に備え、ペットが無事に飼い主のもとへ戻れるよう、鑑札やマイクロチップなど、飼い主の身元がわかるようにしておくことが大切です。

- 1 迷子札：首輪等に飼い主の連絡先をつけた迷子札をつけましょう。
- 2 マイクロチップ: 万が一、迷子札等が外れてしまっても安心で、確実な身元証明です。
- 3 鑑札・狂犬病予防注射済票（犬の場合）：狂犬病予防法で装着が義務付けられています。

(例)

- ✿ 迷子札に連絡先を記載しておく。
- ✿ マイクロチップを装着し、環境大臣指定登録機関に飼い主の情報を登録しておく。



✿ 避難用の持ち出し品・備蓄品

京田辺市では、ペットフードの備蓄はしておりませんので、ペット用の備蓄品は、最低でも5日分（できれば7日分以上）用意しておきましょう。

これは、災害発生直後に支援物資が届くまでの時間を考慮したものです。フードや水、薬など、命に関わるものを優先して準備することが重要です。

備蓄品は優先順位をつけて、人の避難用品と一緒にすぐ持ち出せる場所に保管しましょう。

持ち出し品チェックリスト

| 優先順位 | 内容 |
|-------|--|
| 優先順位1 | <p>命・健康に関わるもの</p> <p>ペットフード、水、療法食、薬、キャリーバッグ、首輪・リード、ペットシーツ、排泄物処理用具、食器</p> |
| 優先順位2 | <p>情報</p> <p>飼い主の連絡先、預け先などの情報、ペットの写真、ワクチン接種状況、かかりつけ動物病院の情報</p> |
| 優先順位3 | <p>その他ペット用品</p> <p>タオル、ブラシ、ウェットタオル、ビニール袋、おもちゃなど匂いがついたもの</p> |

(例)

- ✿ キャリーバッグ：中に入ることを嫌がらないよう、普段から動物病院へ行く際に使うなどして慣れさせておく。
- ✿ フード：普段与えているフードを、ジッパー付きの袋に入れて小分けにしておく。
- ✿ 情報：ペットの写真（複数枚）を携帯電話にも保存しておく。



ペットとの避難訓練

災害発生時には、道路の寸断や交通渋滞が起こり、予定していた避難ルートが使えなくなる可能性があります。ハザードマップを活用して、自宅や避難所等の周辺の危険な場所（土砂災害警戒区域、浸水想定区域など）を事前に確認し、複数の避難ルートを家族で決めておきましょう。

ペットと一緒に避難訓練をすることで、いざという時も落ち着いて行動できます。ペットもペットも、避難経路等の環境に慣れることができ、ストレスを軽減することにもつながります。

避難訓練のチェックポイント

- 1 避難所までの所要時間の確認
- 2 危険な場所や迂回路の確認
- 3 避難所でのペットの反応や行動の把握
- 4 在宅、車中泊、親戚宅等、避難所以外の避難先の想定

（例）

- ❖ 実際にキャリーバッグにペットを入れて、避難所まで歩いてみる。
- ❖ 川沿いや崩れやすい崖の近くを避け、安全な道を確認する。
- ❖ 近所の公園などで、他の犬と出会ったときに落ち着いていられるように練習しておく。



おわりに

災害は突然、私たちの日常を奪います。しかし、日頃からの小さな備えが、いざという時にあなたとあなたの大切なペットの命を救う大きな力となります。ペットは私たちに癒しと喜びを与えてくれるかけがえのない家族です。その命を守ることは、飼い主としての最も重要な責任と言えるでしょう。

この資料で紹介した「住まいの安全対策」や「しつけと健康管理」、「避難用の持ち出し品・備蓄品」等、できることから一つずつ、今日から始めてみませんか。防災対策は一度きりではありません。フードの賞味期限をチェックしたり、季節に合わせて備品を見直したりと、定期的な確認を習慣にすることが大切です。

また、ご近所の飼い主さんと声を掛け合い、万が一の時に助け合える関係を築いておくことも、地域全体の防災力を高めることに繋がります。あなたの大切な家族を守るために第一歩を、今、踏み出しましょう。

京田辺市役所 安心まちづくり室

電話 0774-64-1307 FAX 0774-64-1305